「こ」で始まる語彙辞典（メジャー）

小説・ラノベの文章表現を
豊かにしよう

はじめに

こちらの語彙辞典は、
小説投稿サイト『小説家になろう』で公開している
【小説・ラノベの書き方講座｜ビジネス思考の創作論】の中の
『小説・ラノベの文章表現を豊かにする 50 音別の語彙辞典』を
ＰＤＦレポート形式に整理したものです。

多くの語を記憶することで、
あなたの文章表現力は
今よりも豊かなものとなります。

『１日５語ずつ』などのように目標を決めて、
今の自分が知らない語を暗記していきましょう。

なお、こちらの語彙辞典は
ノマドクリエイターのショウヘイが
趣味の一環で制作したものです。

商用で販売するつもりは一切ないので、
あなたの友人・知人の作家仲間に
自由に配布してくださって構いません。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

目次

はじめに 2

「こ」で始まる語彙辞典（メジャー） 4

おわりに 33

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

「こ」で始まる語彙辞典（メジャー）

こ - あきない【小商い】
わずかな資金で行う商売。「―で身を立てる」⇔大商い。

こ - あじ【小味】
［名・形動］
こまやかで趣のある味わい。また、そのようなさま。「―をきかす」「―なことを言う」

こ - あたり【小当（た）り】
試しにちょっと探ってみること。「―に当たってみる」

こい - う・ける【請い受ける】
［動カ下一］［文］こひう・く［カ下二］
頼み込んで、ゆずり受ける。「珍しい切手を―・ける」

鯉口(こいぐち)を切(き)・る
すぐに刀が抜けるように、刃を少し引き出しておく。鯉口をくつろげる。

こ - いじ【小意地】
ちょっとした意地。「―を張る」「―が悪い」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こう - い【攻囲】
［名］（スル）
敵の城や陣地などを取り巻いて攻めること。「―を解く」「敵陣を―する」

こう - いっつい【好一対】
二つの物や人がよく調和して似合っていること。「―の夫婦」

こう - うん【光暈】
輝いているものの周辺に見える、淡い光のかさ。特に、ハレーションのこと。

こう - えつ【校閲】
［名］（スル）
文書や原稿などの誤りや不備な点を調べ、検討し、訂正したり校正したりすること。「専門家の―を経る」「原稿を―する」

こう - えん広遠】
［名・形動］
物事の規模が大きく、広く、奥深いこと。考えなどが広く奥深いこと。また、そのさま。「―な真理」「気宇―」

こう - えん【好演】
［名］（スル）
みごとに演じること。また、すばらしい演技・演奏。「新人が―した」

こう - お【好悪】
好むことと憎むこと。好き嫌い。「―が激しい」「―の念」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

甲乙(こうおつ)付(つ)け難(がた)・い
二つのものに差がなく、どちらが優れているかを決めるのが難しい。「―・い作品だ」

こう‐かい【更改】
［名］(スル)
① 古いきまりやしきたりなどを新しいものに変えること。「新制度に―する」
② 既存の債務を消滅させ、これに代わる新しい債務を成立させる契約。「契約を―する」

こう‐かつ【広闊】
［名・形動］
広々と開けていること。また、そのさま。「―な原野」

こう‐かん【公刊】
［名］(スル)
広く世間一般に向けて刊行すること。「調査記録が―される」

こう‐かん【交感】
［名］(スル)
互いに感じ合うこと。心が通じ合うこと。「霊との―」

こう‐かん【交歓】
［名］(スル)
ともに打ち解けて楽しむこと。「試合後、両校の選手が―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こう - かん【好漢】
好ましい男。気性のさっぱりしたよい男。快男子。「―自重すべし」

こう - が【高雅】
［名・形動］
気高く優雅なこと。上品でみやびやかなこと。また、そのさま。「―な人格」

こう - がい【後害】
後日の害。将来ふりかかってくる災難。「―を恐れて口を閉ざす」

こう - がく【好楽】
音楽をこのむこと。「―家」

こう - がん【厚顔】
［名・形動］
面の皮のあついこと。恥知らずでずうずうしいこと。また、そのさま。鉄面皮。「―な人」「―無恥」

こう - き【光輝】
① ひかりかがやくこと。かがやき。「―を放つ」
② 名誉。ほまれ。「―ある伝統」

こう - き【香気】
よいかおり。「甘い―を放つ」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こう - きゅう【考究】
［名］（スル）
深く考え、その意味や本質を明らかにすること。「古代史を―する」

こうきゅう - てき【恒久的】
［形動］
いつまでもその状態が続くさま。「―な政策」「―に存在する太陽」

こう - きょう【広狭】
広いことと狭いこと。また、広さ。「語義の―を論じる」

こう - げき【口撃】
［名］（スル）
弁論で他者を批判・非難すること。口先で攻撃すること。「対立候補を口汚く―する」

こう - げん【公言】
［名］（スル）
人前で隠しだてすることなく堂々と言うこと。「―してはばからない」

こう - げん【高言】
［名］（スル）
偉そうに大きなことを言うこと。また、その言葉。「―を吐く」

こう - さく【交錯】
［名］（スル）
いくつかのものが入りまじること。「夢と現実が―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

功罪(こうざい)相半ばする
功績と罪過が半々で、よいとも悪いともいえない。

こう‐ざいりょう【好材料】
① ちょうど都合のよい材料。「週刊誌の―になる」
② 相場が上がるような要因。強材料(つよざいりょう)。買い材料。⇔悪材料。

こう‐しせい【高姿勢】
相手に対して威圧的な態度をとること。高圧的な態度。「弱みにつけこんで―に出る」
⇔低姿勢。

こう‐しつ【高湿】
［名・形動］
湿度が高いこと。また、そのさま。「―な気候」「―地帯」

こう‐しゃ【巧者】
［名・形動］
手慣れていてたくみなこと。また、そういう人や、そのさま。「―な手口」「試合―」

こう‐しゅ【巧手】
技芸などの、技のたくみなこと。また、その人。巧者。「舞の―」

こう‐しゅつ【後出】
文章で、それより後に示してあること。また、そのもの。後掲。「―資料を参照せよ」
⇔前出。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

攻守(こうしゅ)所を変・える
攻め手と守り手の立場が逆になる。「―・えて猛反撃がはじまる」

こう‐しゅん【高峻】
［名・形動］
高くてけわしいこと。また、そのさま。「―な山岳地帯」

こう‐しょう【口承】
［名］(スル)
口から口へと語り伝えること。「民間に―されてきた説話」

こう‐しょう【公称】
［名］(スル)
① 一般に発表されていること。表向きにいわれていること。「―部数六〇万部の雑誌」「参加者三万人と―する」
② おおやけの名称。

こう‐しょう【高尚】
［名・形動］
学問・技芸・言行などの程度が高く上品なこと。けだかくてりっぱなこと。また、そのさま。「―な趣味」「話題が―すぎる」⇔低俗。

こう‐しょう【高唱】
［名］(スル)
① 大きな声で歌うこと。声高らかに唱えること。「万歳を―する」
② 声を大きくして主張すること。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こう - しょく【降職】
［名］（スル）
役職や地位を下げること。降格。降任。「不祥事を起こして―される」

こう - じ【公示】
［名］（スル）
おおやけの機関が、一般の人に広く知らせるために発表すること。「投票日を―する」

こう - じゅく【紅熟】
［名］（スル）
木の実などが熟して赤くなること。「柿が―する」

こう - じょう【厚情】
厚いなさけ。心からの深い思いやりの気持ち。「御―を賜り感謝にたえません」

こう - じょうけん【好条件】
ある目的にかなう都合のよい条件。有利な条件。「―を提示する」

こう - せいさい【高精細】
［名・形動］
きわめて細かいところまで精密であること。また、そのさま。「―な映像」「―なイラスト」

こう - せいせき【好成績】
成績がよいこと。りっぱな出来栄え。よい結果。「―を収める」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こう - せき【光跡】
光の通った跡が残像としてつながって見える筋。「星の―」

こう - せつ【巧拙】
たくみなことと、つたないこと。じょうずとへた。「作品の―を問わない」

こう - せつ【巷説】
ちまたのうわさ。世間の評判。世の中の風説。「―によれば」「街談―」

こう - ぜん【昂然】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
意気の盛んなさま。自信に満ちて誇らしげなさま。「―と胸を張る」「―たる口ぶり」

こうぜん - の - ひみつ【公然の秘密】
秘密であることにはなっているが、広く世間に知れ渡ってしまっていること。

こう - そう〔クワウサウ〕【広壮】
［名・形動］
建物などが、広大で、りっぱなこと。また、そのさま。「―な邸宅」

こう - そう【航走】
［名］（スル）
船で水上を走ること。航行。「洋上を―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こう - そう【高燥】
［名・形動］
土地が高く湿気が少ないこと。また、そのさま。「―な土地」⇔低湿。

こう - そう【高爽】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
土地が高い所にあり、周囲が開けていて気持ちのよいさま。「―たる高原」

こう - そう【高爽】
［名・形動］
志が高くて、いさぎよいこと。また、そのさま。高潔。「―の士」

こうだい - むへん【広大無辺】
［名・形動］
果てしなく広くて大きいこと。また、そのさま。「―な（の）宇宙空間」「―な（の）恩恵」

こう - だん【降壇】
［名］（スル）
壇上から降りること。「演説後拍手に送られて―する」⇔登壇。

こう - ち【巧遅】
出来ばえはすぐれているが、仕上がりまでの時間がかかること。⇔拙速。

こう - ち【狡知】
ずる賢い知恵。悪知恵。奸知（かんち）。「―にたける」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

巧遅(こうち)は拙速(せっそく)に如(し)かず
《「文章軌範」有字集小序から》
仕事の出来がよくて遅いよりは、出来はわるくとも速いほうがよい。

こう‐てい【航程】
航空機や船舶で行く道のり。航行距離。「プロペラ機で三時間の―」

こう‐てき【好適】
［名・形動］
目的にかなっていて、ちょうどよいこと。ふさわしいこと。また、そのさま。「贈り物として―な品」

こう‐でい【拘泥】
［名］(スル)
こだわること。必要以上に気にすること。「勝ち負けに―する」

功(こう)成(な)り名(な)遂(と)・げる
りっぱな仕事を成し遂げ、あわせて世間的な名声を得る。「―・げて帰郷する」

こう‐なん【硬軟】
かたいこととやわらかいこと。「―自在な論調」

こうのう‐がき【効能書(き)】
薬などの効能を記したもの。転じて、宣伝などのために、その物の値打ちや長所を記したもの。能書き。「―を並べる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こう‐はん【広範】
［形動］［文］［ナリ］
広く行きわたるさま。力や勢いの及ぶ範囲が広いさま。「―な知識」「―にわたる活動」

こう‐ばく【広漠】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
広々としてはてしないさま。「―とした大平原」

こう‐ひょう【講評】
［名］（スル）
指導的な立場から、理由などを述べながら批評を加えること。また、その批評。「応募作品について―する」

こう‐ほう【高峰】
高くそびえている峰。ある一群の中でひときわすぐれているものの意にも用いる。「カラコルムの―」「学界の―」

こう‐ぼう【光芒】
尾を引くように見える光のすじ。ひとすじの光。「―を放つ」「――閃（いっせん）」

こう‐まい【高邁】
［名・形動］
志などがたかく、衆にぬきんでていること。また、そのさま。「―な精神」「―な理想に燃える」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こうみょう‐しん【功名心】
功名を強く求める心。「―にはやる」

こう‐よう【孝養】
［名］（スル）
子が親を大切に養うこと。きょうよう。「―を尽くす」

こう‐らく【黄落】
［名］（スル）
木の葉や果実が黄色に色づいて落ちること。「―期」

こうり‐てき【功利的】
［形動］
物事を行うときに、効果や利益のみを重視するさま。「―な考えに傾く」

こう‐りゅう【興隆】
［名］（スル）
勢いが盛んになること。「民族の―を促す」「庶民文化が―する」

こう‐りょう【校了】
［名］（スル）
校正がすっかり終わること。「―した校正刷り」「―日」

こ‐えい【孤影】
独りぼっちでもの寂しそうに見える姿。「―悄然（しょうぜん）として去る」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こえ - ごえ【声声】
多くの人の声。各人の声。それぞれの声。「―に反対を唱える」

声(こえ)を殺・す
あたりに聞こえないように声をおさえて小さくする。声をひそめる。「―・して泣く」

声(こえ)を忍ば・せる
人に気付かれないように声を押さえる。「ひそひそと―・せて言う」「―・せて泣く」

声(こえ)を呑(の)・む
極度の感動・驚き・緊張などのために声が出なくなる。また、言いかけて途中でやめる。「あまりの美しさに―・む」「うわさの当人が急に現れたのであわてて―・む」

声(こえ)を励ま・す
一段と声を高くして言う。激しい調子で言う。「―・して声援を送る」

氷(こおり)を歩・む
薄い氷の上を歩く。非常に危険であることのたとえ。氷を踏む。

こ - がい【小買い】
［名］(スル)
少しずつ買うこと。当座に必要な分だけを買うこと。

こがね - もち【小金持（ち)】
衣食住に不自由なく、好きなことをして楽しめる程度の収入・資産を持っている人。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こがれ - じに【焦がれ死に】
［名］（スル）
恋い慕うあまり病気になって死ぬこと。「―しそうなほど思い詰める」

こきみ - よ・い【小気味好い】
［形］［文］こきみよ・し［ク］
行動ややり方などが鮮やかで気持ちがよい。「―・くストライクがきまる」「競争相手を―・くやっつける」

こきみ - わる・い【小気味悪い】
［形］［文］こきみわる・し［ク］
薄気味悪い。「―・い猫なで声」

こぎ - しゅんじゅん【狐疑逡巡】
［名］（スル）
疑いためらってぐずぐずすること。「―してチャンスを逃がす」

虚空(こくう)を掴(つか)・む
何かをつかもうとしても何もなく、手を上にあげて指をかたくにぎりしめる。ひどく苦しみもがくようすをいう。「―・んで倒れる」

こくさい - しょく【国際色】
いろいろな国の人種や風俗が入りまじってかもし出される雰囲気。「―豊かな都市」

こく - ねつ【酷熱】
非常に厳しい暑さ。「―の砂漠」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こく‐はく【酷薄】
［名・形動］
残酷で薄情なこと。また、そのさま。「―な高利貸し」

黒白(こくびゃく)を争・う
物事の正邪・善悪・是非をはっきりさせる。「法廷で―・う」

黒白(こくびゃく)をつ・ける
物事の正邪・善悪・是非をはっきりさせる。白黒(しろくろ)をつける。「公の場で―・ける」

小首(こくび)をかし・げる
首をちょっと傾けて考えをめぐらす。また、不審に思ったり不思議に思ったりして首をちょっと傾ける。小首を傾ける。

こく‐ふく【克復】
［名］(スル)
困難な事態を乗り越えて、もとの状態にもどすこと。「平和を―する」

こく‐へん【黒変】
［名］(スル)
色が黒く変わること。「病害で麦の穂が―する」

こく‐めい【克明】
［名・形動］
細かいところまで念を入れて手落ちのないこと。また、そのさま。丹念。「―な記録」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こく - れつ【酷烈】
［名・形動］
容赦がなく、はげしいこと。また、そのさま。「―な批評を浴びせる」

こ - ぐら・い【木暗い】
［形］［文］こぐら・し［ク］
木が茂って、その下が暗い。「―・い山中の道」

倒(こ)けつ転(まろ)びつ
たおれたりころがったり。あわてふためいて走るようすをいう。「―逃げ去る」

こげ - こげ【焦げ焦げ】
［形動］
ひどく焦げたさま。「―な（の）飯」「火にかけすぎて―になる」

糊口(ここう)を凌(しの)・ぐ
やっと暮らしを立てていく。貧しい暮らしをする。「内職をして―・ぐ」

呱呱(ここ)の声(こえ)をあ・げる
① 赤ん坊が生まれる。誕生する。「東京で―・げた」
② 新しく物事がはじまる。発足する。「創刊誌が続々と―・げる」

こころ - いわい【心祝（い）】
形式ばらない、気持ちだけの祝い。「―に一本つける」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こころ - おとり【心劣り】
［名］（スル）
予想していたよりも劣っていること。期待外れ。「―する出来ばえ」⇔心勝（こころまさ）り。

心（こころ）が解・ける
心がやわらぐ。気持ちがほぐれる。「彼の―・けるまでそっとしておこう

志（こころざし）を◦得る
目ざしていた職業や地位などに就く。「―◦得ないままでは、故郷には帰れない」

こころ - じょうぶ【心丈夫】
［形動］［文］［ナリ］
頼りになる物や人があって安心できるさま。心強いさま。「君が手伝いに来てくれれば―だ」

こころ - ぞえ【心添え】
親身になって注意すること。忠告。「お―を深謝します」

こころ - だのみ【心頼み】
ひそかに当てにして頼ること。また、その物や人。「―にして待つ」

こころ - づくし【心尽（く）し】
真心を込めてすること。好意がこもっていること。「―の手料理」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こころ - づもり【心積（も）り】
心の中であらかじめ考えておくこと。心中の予定・計画。「昼までに帰る―だったが」「万一の場合の―はしている」

心(こころ)に余・る
自分の考えではどうにも処理できない。思案に余る。「―・る問題をかかえる」

こころ - の - かて【心の糧】
精神を豊かにするのに役立つもの。「―となる書物」

こころ - の - たけ【心の丈】
思うことのすべて。心の深さ。思っている愛情の深さ。「―を打ち明ける」

こころ - まかせ【心任せ】
思いのままにすること。好きなようにすること。気まま。「―の旅」

心(こころ)を砕・く
いろいろと気を遣う。心配する。「育児に―・く」

心(こころ)を汲(く)・む
他人の心の中を思いやる。気持ちを察する。「―・んで静かに見守る」

ここん - むそう【古今無双】
昔から今までに並ぶものがないこと。「―の豪傑」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こ‐ごう[呼号]
［名］（スル）
① 大声で叫ぶこと。「街頭で候補者の名前を―する」
② 威勢を示すために大げさに言いたてること。「参加者五万人と―する」

小腰(こごし)を屈(かが)・める
腰をちょっとかがめる。「―・めてくぐり戸から出る」「―・めてあいさつする」

こ‐さい【巨細】
［名・形動］
大きなことと小さなこと。きょさい。「―となく報告する」

こ‐し【枯死】
［名］（スル）
草木が枯れてしまうこと。「街路樹が排気ガスで―してしまった」

こしかけ‐しごと【腰掛（け）仕事】
一時の間に合わせに従事する、職業や仕事。

腰(こし)が重・い
なかなか行動を起こそうとしない。気軽に動かない。「―・い父が上京する気になった」

腰(こし)が弱・い
① 弱気である。「―・い交渉」
② 粘りけがない。弾力性がなくもろい。「―・い餅」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こ‐しき【古式】
昔から伝わっているやり方。「―にのっとる」「式典を―ゆかしく執り行う」

小癪(こしゃく)に障・る
生意気で腹が立つ。「―・るやつ」

こ‐しゅう【呼集】
［名］(スル)
分散している人々を呼び集めること。「隊員を―する」「非常―」

こ‐しょう【誇称】
［名］(スル)
自慢して大げさに言うこと。誇って言うこと。「世界一を―する大競技場」

こ‐じ【固持】
［名］(スル)
意見や信念などをかたく守って変えないこと。固執。「自説を―して譲らない」

こ‐じ【固辞】
［名］(スル)
かたく辞退すること。「役員の職を―する」

こ‐じゃれた【小洒落た】
ちょっとしゃれた。ちょっと見たところではしゃれた様子である。「―レストラン」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こ‐ぜつ【孤絶】
［名］（スル）
一つだけ離れて取り残されていること。世間とのつながりがなく孤立していること。「大陸から―した島」「都会から―した山村」

こ‐たん【枯淡】
［名・形動］
① 人柄・性質などがあっさりしていて、しつこくないこと。世俗的な名利にとらわれないで、さっぱりしていること。また、そのさま。「―な（の）境地」
② 書画・文章などに俗っぽさがぬけ、あっさりとした中に趣があること。また、そのさま。「―な画風」

木盾(こだて)に取・る
① 間に合わせの盾にする。「横転した自動車を―・る」
② 自分の都合にいいように使う。口実にする。「軍部は統帥権を―・って我意を通した」

こ‐ちゃく【固着】
［名］（スル）
① 他のものにしっかりくっつくこと。「接着剤で棚板を壁に―させる」
② 同じ所にとどまって、そのままの状態で定着すること。「先祖代々の土地に―する」

こ‐ちゃく【糊着】
［名］（スル）
① 糊(のり)でつけること。また、糊でつけたようにぴったりとつくこと。
② ある物事にとらわれて離れられないこと。固執すること。「伝統に―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こっ‐き【克己】
［名］（スル）
自分の感情・欲望・邪念などにうちかつこと。「―して学問に励む」「―心」

こっ‐きん【国禁】
その国の法律によって禁止されていること。「―を犯す」「―の書」

骨髄（こつずい）に徹（てっ）・する
心の底までしみ込む。骨髄にとおる。骨髄に入る。「恨み―・する」

骨肉（こつにく）相食（は）・む
肉親どうしが争い合う。骨肉相争う。「遺産をめぐっての―・む争い」

こづら‐にく・い【小面憎い】
［形］　［文］こづらにく・し［ク］
顔を見るだけでもいやになるくらい憎らしい。小生意気で癪（しゃく）にさわる。「きいたふうな口をきく―・いやつ」

小手（こて）を翳（かざ）・す
広げた手を目の上に置く。遠方を見たり、光をさえぎる動作にいう。「―・して来し方をみる」

こと‐あたらし・い【事新しい】
［形］［文］ことあたら・し［シク］
① 今までのものと違って新しい。「―・い出品はない」
② ことさらに取り上げるさま。わざとらしい。「―・く説明するまでもない」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ことあり - げ【事有り気】
［形動］［文］［ナリ］
いかにも特別な事情がありそうなさま。「―にメモを渡す」

事(こと)ここに至・る
ある状況に至って、どうにも変更しようのない事態になる。事ここに及ぶ。「―・ってはすべてを話すしかない」

事(こと)志(こころざし)と違(たが)・う
物事がうまくいかず、現実が意図したものや理想と食い違う。「―・って政治家になれなかった」

ことさら - め・く【殊更めく】
［動カ五（四）］
わざとらしく見える。わざとらしくなる。「あまりほめるのも、―・いてかえっておかしい」

事(こと)と次第によ・る
結果や対処の仕方が、事柄やなりゆきにかかわる。「―・っては今日は帰れない」

異(こと)に◦する
① 別にする。ちがえる。「趣を―◦する」「考えを―◦する」
② 際立って特別である。「幼時から才を―◦した秀才」

言葉(ことば)が尖(とが)・る
言葉の調子がとげとげしくなる。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

言葉尻(ことばじり)を捕(と)ら・える
相手のささいな言いそこないにつけ込んで、攻撃したり批判したりする。「―・えて反論する」

ことば - ずくな【言葉少な】
［形動］［文］［ナリ］
控えめで、多くしゃべらないさま。寡言。「―に語る」

言葉(ことば)に余・る
言葉では言い尽くせない。言葉では表せない。「感謝の気持ちは―・るほどです」

言葉(ことば)の先を折・る
口出しをして、人の話をさえぎる。

ことば - の - はし【言葉の端】
話の中のちょっとした言葉。言葉じり。「―から大体のようすは推察できる」

言葉(ことば)は心(こころ)の使(つか)い
心に思っていることは自然と言葉にあらわれるということ。

言葉(ことば)は立居(たちい)を表(あらわ)す
《「立居」は、日常の動作》
話し方に、その人の人格・性行までもが表れる。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

言葉(ことば)を飾・る
巧みな言葉遣いをする。特に、巧みな言い回しで偽りを言う。

言葉(ことば)を呑(の)・む
感動や驚きのために、また、相手の気持ちを察して、言おうとしたことが言えなくなる。「相手のあまりの変わりように―・む」

言葉(ことば)を卑(ひく)く◦する
へりくだって物を言う。「―◦してお願いにあがる」

事(こと)を構・える
争い事を起こそうとする。事を荒立てる。「境界のことで隣家と―・える」

事(こと)を分・ける
筋道を立てて詳しく説明する。条理を尽くす。「―・けて話せばわかってもらえる」

こども - こども・する【子供子供する】
［動サ変］［文］こどもこども・す［サ変］
いかにも子供っぽいようすである。「―・したところのある学生」「―・した服」

粉(こな)をか・ける
女性を口説こうと、気軽に声をかけてみる。「ちょっと―・けてみる」

小鼻(こばな)を膨(ふく)らま・す
不満そうにするさまをいう。「―・して文句をいう」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こ‐ばや・い【小早い】
［形］［文］こばや・し［ク］
急ぎ気味である。時間的にやや早い。「―・く支度をする」「―・く床に就く」

小膝(こひざ)を打・つ
ふと思いついたり、感心したりしたときに膝を軽く打つ。

こぶ‐こぶ【瘤瘤】
こぶ。また、あちこちにこぶができていること。「―の枝」

こまごま‐し・い【細細しい】
［形］［文］こまごま・し［シク］
① たいそう細かい。また、細かく雑多である。「―・い台所道具」
② 煩わしい。くだくだしい。「つまらぬことまで―・く取り上げて言う」

独楽鼠(こまねずみ)のよう
休みなく動きまわるさまのたとえ。「朝から晩まで―に働く」

こ‐ゆるぎ【小揺るぎ】
少し揺れ動くこと。「―もせずに目を閉じている」

此(こ)れ幸いと
偶然生じたあることをするのに都合のよい状況を逃さないさま。「上司の外出を―仕事をサボる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こ - ろう【固陋】
［名・形動］
古い習慣や考えに固執して、新しいものを好まないこと。また、そのさま。「旧時代の―な人々」「頑迷―」

こわく - てき【蠱惑的】
［形動］
人の心をひきつけ、まどわすさま。「―な姿態」

こわ - だんぱん【強談判】
主張を通そうと強い調子でかけあうこと。強硬な談判。「―に及ぶ」

こん - く【困苦】
［名］（スル）
困り苦しむこと。また、そのような状態。「―に耐える」「―を嘗(な)める」「天災が重なって―する」

こん - さい【混載】
［名］（スル）
違ったものをまぜて積載すること。「食料品と乗客を―した定期船」

こんじゃく - の - かん【今昔の感】
今と昔を思い比べて、あまりに違っているのに心を打たれること。「―に堪えない」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

こん - めい【混迷】
［名］（スル）
混乱して、分別に迷うこと。複雑に入りまじって、見通しがつかないこと。「政局が―してきた」

こん - よう【混用】
［名］（スル）
まぜて使うこと。混同して使うこと。「片仮名と平仮名を―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

おわりに

【あいさつ】

語彙辞典を読んでくださり、ありがとうございました。

当レポートを制作したショウヘイと申します。

私は旅する作家という生き方を理想としています。日本や世界の各地を渡り歩くことで、作家としての引き出し（人生経験）を増やし、より良質な物語を世に送り出し続ける……そんな自由な作家生活です。

また、個人で稼ぐ能力を身に付けることで、会社に時間と場所を縛られない人生の実現も目指します。個人で安定した収入を得られれば、出版社の編集者の言いなりにならずに、自分が心から好きな物語を創作できるようにもなるからです。

私が運営しているブログ【ノマドクリエイターの執務室】では、旅する作家になるために役立つ情報を発信しています。もちろん、小説家・ラノベ作家として活躍するために役立つ創作論も公開しています。

時間と場所に縛られない、新しい作家の生き方に興味がありましたら、ぜひブログを覗いてみてください。

↓　↓　↓

■ ブログ：ノマドクリエイターの執務室（https://ノマドクリエイター.net）

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.